

# 永井先生からのメッセージ No.8

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年4月14日(金) 野毛山幼稚園

元小学校教諭 永井 裕

今回の紙面は、ある小説家さんが、その著書に書かれていたことをもとにしています。新年度のはじまりとしては、やや重い内容ですが、とても大切な考え方だと思い、お伝えすることにしました。

(今回はその小説家さんを『H氏』とします。詳しいご紹介は来月号で)

ご入園 ご進級  
おめでとうございます

## 【コロコロ変わる自分】

- ▶まるで仮面を付けかえるように、相手によってコロコロと自分を変える。あまりいいイメージではありませんが、H氏は、「それでいいのだ。」と言います。メディアが発達し、人間関係が複雑化した世の中。「これが本当の自分。私は決してブレません……にはもう無理がある。」「たとえ、ウラオモテがあるとわれようとも、それは決して、ニセモノの自分ではない。どちらも本当の自分なのだ。」と言うのです。つまり、「知り合いが10人いれば、10人分の自分がいる。居場所が10か所あれば、10か所分の自分がいる。それが、他者と生きるということだ。」という考え方です。
- ▶小学校には、「なかなか学校になじめない」とか、「なかなか教室に入れない」という子どももいます。でも、H氏に言わせれば、「だからといって、この子はこういう子だと決めつけてはいけない。」ということです。もし、その子が、「保健室なら大丈夫」ならば、それでいい。もし、学校での自分がイヤになっても、放課後の自分がうまくいっているのであれば、それでいい。もし学校が苦手でも、その子が安心できる居場所がほかにあったり、家で生き生きと過ごすことができたりするのであれば、まずはそこを足場にして、その子の今を応援していけばいい。
- ▶小学校では、学年が上がるにつれて、友達関係の悩みも増える傾向があります。この前まで仲よしだったのに、急にNGに……。だれにでも経験があることだと思います。でも、そんな時も、「深刻に考え込む必要はない」とH氏は言います。友達関係など「こっちがダメなら、あっちがある」、それでかまわない。別の自分になればいい。どうせ中学校に行けば、昔の仲よしにかかわっているヒマなどなくなるのだから。
- ▶コロコロ変わる自分。「コロコロ転がって遊ぶの大好き」の子どもたちには、まだ先の話と信じられたかと思います。でもそんな子どもたちも、幼稚園での生活の中で、少しずつ「親には見せない顔」「家とは違う自分」というものを見せるようになっていくのでしょう。

今年度も、より良き成長の日々となりますこと、心よりお祈りしております。

『何かが苦手なAちゃん』。でも、それがAちゃんの全てではない。  
Aちゃんの中には、たくさんのAちゃんがいる。たくさんの可能性がある。

【H氏はだれ？ヒント】 2019年、H氏の小説が映画化。主演は、福山雅治さん、石田ゆり子さん。